事例から学ぶ

手術・検査に伴う服薬休止や再開に関連する疑義照会や処方医への情報提供を行った事例

【服薬休止：出血する可能性がある手術・検査】

■事例の詳細

患者は医療機関で下部消化管内視鏡検査を受けることになり、かかりつけ医から処方されているクロピドグレル錠75mg「サワイ」の服用を検査6日前から休止するよう指示があった。数日後、かかりつけ医から定期薬が処方された際、クロピドグレル錠75mg「サワイ」が他剤と同じ処方日数で処方され、服薬休止の指示はなかった。検査の予定と実施する医療機関からの指示をかかりつけ医に伝えたところ、処方日数が変更になった。患者は一包化調剤された薬剤を服用していたため、分包紙に日付を印字して薬剤を交付した。

■推定される要因

かかりつけ医に検査の情報が伝わっていなかった可能性がある。

■薬局での取り組み

検査に伴い服薬を休止する際は、患者の飲み間違いを防止するための対策を行う。

➡この他にも服薬休止に関連した事例が報告されています。

【ヨード造影剤を使用する放射線検査】

◆ 2つの診療科から発行された処方箋を応需した。総合内科からメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSEP」が処方され、循環器内科の処方箋からヨード造影剤を使用するCT検査の予定があることが分かった。メトホルミン製剤とヨード造影剤の併用により乳酸アシドーシスを起こすことがあるため、総合内科の処方医に情報提供を行った結果、CT検査の前後2日間はメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSEP」の服用を休止するよう指示があった。

【ヘリコバクター・ピロリの除菌前後の検査】

◆ 患者に定期薬としてネキシウムカプセル10mgが処方されていた。薬剤を交付する際、患者から2週間後に尿素呼気試験を受ける予定があることを聴取した。PPI製剤を服用中は偽陰性になる可能性があるため、服薬中止後2週間以上経過してから尿素呼気試験を行う必要があることを処方医に伝えた結果、ネキシウムカプセル10mgが削除になった。

【絶食を伴う手術】

◆ 1か月後に整形外科で手術を受ける予定の患者に、腎臓内科から初めてジャディアンス錠10mgが処方された。腎臓内科の処方医は手術の予定を把握していたが、休薬することなく継続して服用するよう指示した。2020年12月にSGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendationが改訂され、手術の3日前から休薬することが記載されていることを腎臓内科の処方医に情報提供した結果、手術の3日前からジャディアンス錠10mgの服用を休止することになった。

【歯科インプラント手術】

◆ 患者にリセドロン酸Na錠17.5mg「サワイ」が初めて処方された。薬剤を交付する際、患者から、歯科でインプラント手術を受ける予定であるが、処方医にそのことを伝えていないことを聴取した。ビスホスホネート製剤による治療を受けている患者において顎骨壊死・顎骨骨髄炎があらわれることがあることから疑義照会を行った結果、リセドロン酸Na錠17.5mg「サワイ」の服用はインプラント手術が終わってから開始することになり、今回は削除になった。

➡服薬再開に関連した事例も報告されています。

【出血する可能性がある手術・検査】

◆ 患者は、手術のため入院する予定の医療機関Aから、透析を受けている医療機関Bで処方されている定期薬のクロピドグレル錠75mg「三和」の服用を休止するよう指示された。退院後、医療機関Bから定期薬が処方された際、クロピドグレル錠75mg「三和」が処方されていなかった。疑義照会を行った結果、処方漏れであったことが分かり、追加になった。

ポイント

●薬剤師は、手術・検査の前後に服薬休止の可能性がある薬剤について正しく理解し、処方医や患者に情報提供を行うことが重要である。そのためには、手術・検査の前後に服薬を休止する必要がある薬剤をリストアップし、それらの薬剤が処方された際の対応について業務手順を定め、薬局内で共有しておく必要がある。

●手術・検査の前後に服薬休止の可能性がある薬剤を交付する際は、患者にその理由を伝えたうえで、服薬中に手術・検査を行う予定があれば薬剤師に伝えるように説明しておくことが重要である。さらに、患者がそれらの薬剤を服用している期間は、手術・検査の予定の有無を継続して確認する必要がある。

●抗血栓薬は、出血などのリスクを軽減する目的で手術・検査の前後に服薬休止期間を設けることがあるが、その判断は処方医・医療機関により異なる。服薬休止によるメリット・デメリットを検討した結果、服薬を継続する場合があることを理解する必要がある。手術・検査の予定がある患者が抗血栓薬を服用している場合は、患者に服薬休止について指示を受けているかを確認し、指示がなければ処方医、あるいは手術・検査を実施する医療機関に問い合わせ、服薬休止の必要性を確認することが重要である。

●手術・検査に伴い、継続して服用していた薬剤を休止した場合は、患者の体調変化や服薬を休止した薬剤の再開など、その後の経過を把握する必要がある。特に、抗血栓薬やビグアナイド薬が再開されなかった場合は、処方医に確認することが重要である。

公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル　電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/